



Title	大阪市保健指導研究会：小笠原副会長
Author(s)	松本，恭幸
Citation	大阪公衆衛生. 1983, 47, p. 36-38
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83985
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

インタビュー記



大阪市保健指導研究会副会長小笠原美紀恵さんにお話を伺いました。

松本恭幸 はじめに、大阪市保健指導研究会のことを教えていただきたいんですが……。

小笠原美紀恵 目的としては会員の資質向上に努め、大阪市の公衆衛生事業の発展に寄与し、併せて会員相互の親睦を図るということを掲げて昭和14年に発足しました。第2次世界大戦のために一時中断はしましたが、昭和22年に再開しまして、現在会員数は291名です。

研究活動の内容を申しますと総会と例会あわせて4回をもち、保健婦業務全体の大きな問題をとりあげて研究しています。身近な日常業務にすぐに反映できるような研究課題は、成人保健部と母子保健部に分けて夫々のテーマを取りあげて研究しております。

松本 長い歴史が、あるわけですね。ところで、府と市の保健婦業務の違いみたいなものは、どんなものに、なるのでしょうか？

小笠原 市の保健所では、府の保健所業務と市町村業務の両方合わせた業務と云えるかと思えますね。例えば予防接種や母子健康手帳の交付も保健所でしていますので、妊婦さんの全数把握ができますので、母子健康手帳の交付時に全員個別に面接指導ができる利点があります。又この時に母子管理票を作りまして、妊娠中からそのお子さんが小学校へ入る

まで経過をみることもできるのです。

松本 具体的には子供の健診としてどんな方法がとられているのでしょうか。

小笠原 3カ月児と1才6カ月児と3才児というのが、市で決められた健診なんですけど、保健所によっては7カ月児とか、1才児とか、2才児とか、地区の必要性によって育児教室を開くなどしています。

3カ月児、1才6カ月児、3才児と一貫性をもって把握できますので、管理がうまくいくと思います。管理という言葉はあまりよくないんですけど。(笑)

松本 最近、保健婦さんが、障害児や心理の方面に力を注がれているように思うのですが、れどもどうなんでしょうか。

小笠原 障害児だけというわけではなく、健診でみつかった問題をもつ児については、医療機関や施設を紹介したりまた、保健婦が全般的に経過をおっています。それに予約健診と言いますか、もう一度経過観察をしなければいけない児は再度呼びかけて、健診をするというのは大部分の保健所でしておりますね。3カ月児健診のときに来所しなかった児については、電話をするなり、訪問したりして、必ず全数把握をするようにしていますから、その時に発見されましたら問題が解決するまで、フォローしていくわけです。

未熟児、低体重児については、それが発生したという連絡をもらいましたら、保健婦が、すぐに訪問して指導しています。新生児については、大阪市がすべて助産婦会に指導を委嘱していますので、助産婦さんが、訪問します。ただし、何か問題がある時とか、心配ごとがある時などは、保健婦が訪問しています。

松本 老人保健法が施行されたことで、大阪市の場合どんなことが変わったんでしょうか。やはり、各保健所に直接かかわってくると思うんですけど……。

小笠原 そうですね。これから体制を作っていくところですが……。保健婦業務としては

妊婦さんから老人までが対象ですから、以前からある程度の活動はしていたわけです。それがこれからは法律に基づいて実施するようになったわけですが、高齢化社会にむけて、地区の要望にどう応えていくかが、今後の大きな課題だと思います。

松本 僕は、府であれ、市であれ、保健婦業務として、やはり訪問指導が、一番にあげられると思うんですが、最近は“クリニックがありますから保健所に集まって下さい”みたいな感じが、多いような気がするんですけども……どうなのでしょう。

小笠原 昔のいわゆる歩く保健婦活動と現在保健婦活動とよく比較されるのですが、社会情勢の変化と共に地区の問題点、要望なども変化してきますし、それに伴って保健婦活動も当然変わってくると思います。個別に数多く訪問指導をするのも一つの手段だと思いますが、やはり全体をマスでとらえて、その中からとらえた問題をもつ個を訪問する形、又ほとんどどここの家にもある電話も大いに利用して効率よく指導しなければ、対応しきれなくなると思いますね。

松本 そうですかところで精神衛生業務と保健婦さんとの関わりあい、はどうなっているんですか？

小笠原 保健婦が精神衛生担当員の辞令をもらって担当しています。

松本 そうしたら、ケース・ワーカーは、おられないんですか？

小笠原 ええ、ケース・ワーカーはおりません。精神衛生相談員は保健婦ですので、担当地区の保健婦の協力を得られやすいですし、患者を医学面からみることができますし、訪問先で患者以外の家族の指導もあわせてできることが強味だと思いますね。もちろん対象者によっては、福祉事務所のケース・ワーカーや保健所の精神衛生担当の事務職の男性と同伴面接や同伴訪問等もしています。

松本 保健所にはたくさんの方がいます

が、今、特に問題になっていることはありませんか？

小笠原 そうですね。今、指導研究会では研究テーマとして、老人問題について4～5年前からとりあげているんですが「ねたきりにならないための衛生教育」をどうひろげていくかが大きな問題だと思いますね。一度、ねたきりになってしまいますと、再び自立するのは大変なんです。お年寄りですと本人が起きて動こうとする気が乏しいですし、家族も動かす努力をするより寝ていてもらう方が手がかからないという感じですし……。

松本 なかなかむづかしい問題ですね。

小笠原 そうですね。ですから40才から、寝たきりにならないために健康に気を配って、成人病予防を含めていかに健康に老いるかが大切になってきますね。

実際には、40才からといいましても、今は健康に自信があるからと、身近かな問題としてとりあげられないんですよ。一度講習会の会場で、脳溢血で倒れた方がおられて大変だったんですが、その時は「生きた教材」として、皆さん熱心に受講されたんですが、衛生教育というのはあまり面白くありませんのでなかなか興味をもってもらえないですね。

松本 栄養士さんに聞いたことがあるんですが、糖尿病の人は自分でなおそうと努力をするけれども、高血圧の人なんかは、自分自身、病気だという意識がうすくて、衛生教育をしても、あまり効果がないということらしいですけど……。

小笠原 みなさん。知識としては、もっておられるんですね。この頃、マスコミなんかでも、よくとりあげていますし……。ところがいざ、実行するとなるとむづかしいですね。「知っているということと、わかるということとは違うんですよ」ってよく言うんですけど。

松本 いろいろとお聞きしますが大阪市の結核患者のうち、感染性の患者数も、り患率も、全国平均に比べて減少しないのは、何

故でしょうか？僕はこの仕事を担当していますので関心があります。

小笠原 むずかしいですね。大企業でしたら検診をうける機会が多いんですけど、検診をうける機会の少ない方から結核がみつかりますと、発見された時には、相当悪い状態である人が割合多いんじゃないでしょうか。

大阪市の場合、あいりん地区を含んでいますので、それが大きなウエイトを占めていると思います。結核は昔と比べるとずっと減っているんですけど、それでも関東と比べると2倍位ありますね。保健所で結核対策として特に力を入れているのは、乳児の3カ月健診の時点で、ツ反とBCG接種をなるべく早くうけるように勧めて、予防対策していくことです。そして1才6カ月児健診のとき、また3才児健診のときにツ反とかBCG接種を行なったかどうかをチェックしています。

松本 市のほうでも結核対策としてX線の検診車を使っておられるのですか？

小笠原 ええ、X線の検診車が4台ありまして、市民検診として年間フルに動いているんです。26保健所のなかで少ないところで10回位。多いところでは20回以上、各校区で検診をしています。その時に循環器検診も併せて実施しまして、高血圧の方、尿蛋白(+)の方を対象にした成人病教室を開催して衛生教育をしているんです。この頃は結核検診だけよりも、循環器検診を同時に行なった方が人が集まりますし、効果もありますね。

松本 お話をお聞きしていると市の保健婦さんのほうが、府の保健婦さんに比べて活動範囲が広くて大変だなあって感じがします。

小笠原 そういう感じがありますか。(笑)

現実には保健婦は、何時もなかなか忙しいんですけど、数字として実績が、あがってこないの、外部のかたに評価がされなくて……少し残念です。

活動の仕方が、下手なのかもしれませんけど。それをどう評価してもらおうかっていうこ

とはなかなかむずかしいですね。

松本 個人的なことを伺いますが、初めから保健婦さんになりたかったわけですか？

小笠原 看護婦の免許もありますけど、保健所実習の時に保健婦の仕事の内容をみているうちに、保健婦の方が自分で考えて活動できる自主性のある仕事、専門性の楽しさがあるように思われたので保健婦の道を選んだんです。それに結婚しても続けられる仕事をもちたいと思っておりましてね。

松本 そうですか。ところで、ご趣味はなにかもっておられるんですか。

小笠原 盆栽と日本舞踊を少し習いはじめているんです。盆栽は、さつきや松など400鉢近くあるんです。日本舞踊は足や腰をきたえて、すこやかに老いるためにと始めたのですが、なかなか憶えられなくて、お稽古では小さな子供さんの方が進歩が早いんですよ。

松本 盆栽が400本もあれば手入れがたいへんでしょう。どうされているんですか？

小笠原 毎日とはとても無理です。休日にこまめにするんですが、たくさんあると水やりを忘れるということは絶対にありませんので、かえってよいのではないかしら。(笑)

— ちょっと一言 —

インタビューをするのは初めてのことでいったいどうなるのかと内心不安いっぱい緊張して対談にのぞみました。

話をしているうちに僕と同年のご子息もおられるとかで、気易く話相手になっていたいて次第にうちとけて自由にお話しができるようになりました。

大阪市の保健婦さんというより、市の公衆衛生担当者の方と話しあうということは、ほとんど機会がないと思うのでとてもいい経験をさせてもらったと感謝しています。僕は、事務職であるけれど公衆衛生活動を推進してゆく者の一人として頑張ろうと思います。

(大阪府寝屋川保健所 松本恭幸)